

にしのみやし くうしゅう 西宮市の空襲

重要工業都市西宮は 5 回に及ぶ空襲を受け、市街地の大部分が焼失するという壊滅的な被害を受け、多数の死傷者を出した。

第 1 回空襲＝昭和 20 年（1945 年）5 月 11 日

B29（アメリカ長距離爆撃機）92 機が午前中阪神地区に来襲し、西宮市の桜谷町、越水町・若松町・分銅町・末広町・千歳町・寿町などの各方面に爆弾を投下した。

第 2 回空襲＝6 月 5 日

B29・474 機が、午前 7 時ごろから 10 ないし 30 機の編隊をもって紀伊水道から阪神地区に侵入し、西宮市では川西町・霞原町・川東町・宮西町・荒戎町・市庭町などに焼夷弾攻撃を加えた。ついで 6 月 9 日には B29・44 機が主として鳴尾村に来襲した。そのため川西航空機鳴尾製作所では建物被害が 60%にも達し、豊年製油鳴尾工場では油槽が全部破壊されて操業不能におちいり、昭和電極鳴尾工場でも若干の被害があった。

第 3 回空襲＝6 月 15 日

B29・444 機が少数の小型機をともない、約 1 時間にわたって主として大阪付近に焼夷弾攻撃を加えた。西宮市でも津門稻荷町・同仁辺町・同宝津町方面が罹災し、鳴尾村も被害を受けた。

第 4 回空襲＝7 月 24 日

B29 と小型機との計・77 機によって爆弾が投下され、20 機ないし 40 機の編隊による波状攻撃が加えられた。爆撃目標が川西航空機宝塚工場にあったので本市では仁川・段上・神呪方面に被害をだした。

第 5 回空襲＝8 月 5 日夜半から 6 日

8 月 5 日午後 10 時ころ空襲警報が発令されたが、これはまもなく解除された。ところが午後 12 時前になって再び警戒警報が出され、ついで空襲警報が発令され、B29・250 機による数機編隊での波状攻撃が加えられ、文字どおり焼夷弾・爆弾の雨がふった。火柱は市中いたるところに立ちのぼり、猛烈な火炎が夜空をこがして、爆発音や対空砲火がとどろいた。市民は防火にめざましい活動を示したが物量をほこる波状攻撃に対しては、ほとんど効果を挙げえなかった。こうして恐怖の一夜が明けると、市の南部市街地はほとんど全滅するという悲惨な姿に変わっていた。

- 計 5 回の空襲による被害 : 死者 637 名、重軽傷者 2,353 名
(鳴尾村での被害 : 死者 188 名、重軽傷者 235 名)